

外国人の気持ちを動かすには、視点を変えたPRが必要です。



YouTuber
クリス・ブロード 氏
山形県酒田市でALT(外国語指導助手)として3年間勤務。その間に、趣味としてYouTubeに山形を中心とした東北の動画を公開し、欧米を中心とした外国人ビューアーの人気を集める。その後、仙台に移り住み、櫻井氏のビジネスパートナーとして、東北の魅力を発信する動画作成を行っている。



株式会社ライフ・ブリッジ
代表取締役
さくらい りょうたろう
櫻井 亮太郎 氏
仙台市出身。高校から10年間の海外生活を経験し、1999年に帰国。外資系金融会社に6年間勤務した後、2006年に仙台に戻り、研修およびPR事業、翻訳事業などを行う㈱ライフ・ブリッジを設立。

私たちがYouTubeで動画を公開し始めたのは2年前のことです。以来20本程度制作してきました。クリスは、酒田にいた頃から、趣味で日本での田舎暮らしを紹介する動画を公開して人気を集めていきました。私たちが一人で番組をつくることになったのは全くの偶然で、知人が引き合わせてくれたのがきっかけでした。クリスという「イギリス人の旅行者役」がいて、私が「地元の人」という役回りを担うというスタイルがうまくいき、今も多くの方にご覧いただいています。

私たちが最初に制作したのは、「米沢牛」と「日本の旅館」を題材にした番組で、現在の視聴回数は93万回を超えています。YouTubeの特異性として、半永久的に動画が残るといふ点が挙げられます。何かのタイミングで「米沢牛」がニュースになると、2年前に制作した動画でも視聴回数が増えるんですね。今の方々は、ニュースになるたびにインターネットで検索する傾向にありますから、一度発信したものが何度も見直される可能性があります。

3000万人に迫る訪日外国人を、もっと東北に呼び込もうと、インターネットの動画サイト・YouTubeで東北の魅力を発信し続けているお二人がいます。
今月号では、「知られざる東北」を独自の視点で切り取るお二人からお話を伺い、外国人に向けた情報発信の新しい見方を探ります。

第1特集 外国人の ハートをつかめ!

インバウンド拡大を目指し
仙台・東北を世界へ発信

**視聴者の目線で
トピックを選択**



性があるという点で、YouTubeは優秀な宣伝媒体であると言えると思います。

が、これらはすべて日本人には当たり前なものばかりです。

私たちが番組をつくる上で心がけていることをいくつかお話します。まずは、カメラの向こう側にいる視聴者を常に意識しながら話すこと。あたかも自分が画面の中にいるような雰囲気をつくり、一緒に日本を旅行している感覚を持ってもらう仕掛けです。それから、なるべく地元の人に登場してもらいたい。旅先で、動画で見た人実際に会えたら、意外とうれしいですよ。

私たちに動画の制作を依頼してくださるクライアントの皆さんは、当然ですが宣伝としての動画を期待しています。でも、日本人(地元の方)が「いいよね」と思っている地域の名所旧跡や温泉が、外国人旅行者の興味を引くとは限らないのです。私たちの動画の視聴者は7割が欧米系の男性なので、まずは彼らの視点でトピックを選ばないといけないわけです。「日本を好きだ」というたくさんの方が見ている中で、神社や温泉はどこにでもあるものから、特に興味を引く対象ではないのです。その上で、そこにしかないモノ、コト、ヒトと、それらのストーリーを紹介する番組を、私たちはつくっています。ですから、私たちの「おもしろいネタ」探しはほとんど大変になってきています。しかし、このネタ探しの大変さを乗り越えない限り、外国人旅行者に東北に来てもらうということにはつながらないと思います。

**新幹線で伝わった
青森の「秘密」に注目**

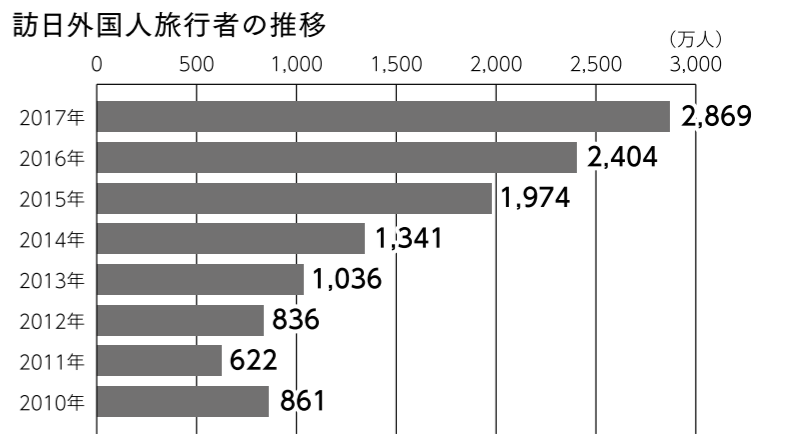


クリスは東北の魅力を「外国人旅行者が少ないこと」と言います。東京や京都は今や外国人ばかりですから、東北は「自分は日本にいるんだ」とい

うのを実感できる場所なのだそうです。また、東北にいくと冒険とか探検をしている気持ちになれるとも。クリスは東北を「日本が隠し持っている一番の秘密」と表現します。そう言われてみれば、日本人に「田舎の風景といえは？」とたずねると、「東北」と答える人が多いように思います。全国どこにでも田舎はあるにも関わらずです。それを東北の魅力としてうまく使えないかとも思っています。

私は、震災直前である2010年の「インバウンド861万人」という数値を一つの指標、標準値として考えています。ここから2017年までに、日本全体では2000万人も増えて2869万人に達しています。3000万人に迫る勢いですね。しかし、残





始めたから、外国人旅行者が集まってきたのでしよう。さらに新幹線が函館まで延伸したことも大きく影響しており、函館を訪れた外国人旅行者が、足を運べる範囲になった青森の魅力に気付いたのかもしれない。

「東北に来て！」をやめてみる



ご存じの方もいらっしゃるかと思いますが、台湾人は訪日5回目以降に東北に足を運ぶというデータがあります。逆に言うと、最初の4回では東北には来ないということです。これを2回目、3回目に訪れてもらえるようにするためにはどうするかということを考えてする必要があります。

まず、東北を訪れる外国人旅行者は、「おもしろいモノがたまたま東北

にあった」というだけで、初めから「東北にきたい」わけではないということを確認する必要があります。ですから、「東北に来てください」というのは、あまり効果がないのです。「東北に来てください」という文章の中には、「おもしろい(興味を引く)言葉」は一つも入っていません。ですが、例えば「ものすごいカッコイイ古民家の旅館があるから来ませんか」なら、どうでしょう。相手は欲しいと思っているものを提供するものが大切で、「昔から伝わる由緒正しい何々があるから見てください」というのは、こちら側の論理でしかありません。大切なのは、「イメージが定着していない地域には観光客が来ない」ということだと思います。東北にはシークレットがたくさんある。それは何かということをやうまく

念ながら全国の中での東北のシェアはこのうち1.3%に留まっています。回復基調にあるものの、これは震災前の1.9%にも届いていません。東北の可能性からするとまだまだ寂しい数値だと思います。こうした場合、実は青森県の伸び率が目立っているのです。理由の一つに、最近まで新幹線が通らなかったことが挙げられるのではないかと考えています。その中で独自の文化が育まれ、最後まで「秘密」が残った。そんな場所の魅力が外に伝わり

「地域」と「魅力」を結び付けられるかがカギ

皆さん、「ネバダに来てください」と言われても、ピンとくる人は少ないのではないのでしょうか。でも、「ラスベガスに来てください」と言われたらどうでしょう。「ラスベガス」と聞いた瞬間に、カジノや豪華絢爛なショーが頭に浮かび、その華やかさがイメージできます。それと同じように、「東北」と「数々のシークレットがあるところ」というイメージを結びつける必要があるわけです。おもしろいモノやコトがあつて、おもしろいヒトがいることを宣伝する。結果としてそこが東北だったということを増やしていくことで、外国人旅行者の興味を引くことができるのではないのでしょうか。

私たちは、東北を「JAPAN's best kept secret」と称しています。「日本で最も隠され続けてきた最大の秘密(の場所)」とでも訳せばいいでしょうか。今までお話ししたように、「東北」と「地域」と「そこにしかないおもしろいモノやコト」とを結び付けられれば、東北には人を呼ぶことができる魅



お二人の動画はここでチェック! 「ABROAD IN JAPAN」で検索



力がまだまだたくさんあります。私たちは、新しい試みとして、これまで東北各地を舞台に制作してきた動画を地図上にプロットして公開するという取り組みを始めたところです。私たちの動画をご覧いただいているたくさんの方々に、仙台ー東京間が約90分で移動できる利点をPRしつつ、仙台を拠点にしながら、東北各地まで足を伸ばしてもらおうという考えです。これまでの活動の中で、私たちはとても多くの人脈をつくることができました。動画の視聴回数が増えることで、私たちの取り組みへの信頼も増していると思っています。こうした信頼や絆を大切に、自分たちにしかできない内容を、これからも発信していこうと思っています。

皆さんも、ぜひ私たちの動画をご覧いただき、新たな視点で外国人を呼び込むためのヒントをつかむのに役立っていたらうれしいですね。



インバウンド 拡大の重要拠点 進化する 仙台空港

インバウンドの拡大には、空港の利活用を進めることがカギとなります。民営化から2年。仙台空港は、東北の玄関口として日々進化し、使い勝手もどんどんよくなっています。

1 増加する定期路線

2017年度は神戸線(スカイマーク・7月)、札幌線、台北線(いずれもピーチエアライン・9月)、今年4月には出雲線(フジドリームエアラインズ)が開設されています。

2 空港施設の充実

新しくなった国内線到着ロビー
まず目に飛び込んでくるのはウエルカムホール。インフォメーション機能も充実させ、目的地への快適な移動をサポートしています。



ウエルカムホールが来客をお出迎え

その2 多様な文化・趣味への対応

さまざまな文化・習慣を持った方々のために礼拝室をオープン。また、空港を起点とした周辺地域への人の流れをつくろうと、ランナースポーツとサイクリングポートを開設しました。ひと汗かいた後はシャワーを浴びて飲食を楽しむことも可能です。



新設されたサイクリングポート

その3 国内線保安検査の時間短縮

これまでとは同時に行っていた「搭乗券確認」と「保安検査(ボディチェック・機内持込手荷物)」を2段階に分け、待ち時間の短縮を実現。ゴールデンウィークも目立った混雑は無かったとのこと。

3 国内線旅客搭乗棟 (ピア棟)の建設

今後の旅客増加を見越して、ゲート機能、待合スペースを有した搭乗施設を増設中。現状300万人台に設定されている施設利用上限を、民営化30年後の目標に掲げる550万人まで一気に拡充する予定で、今年11月の運用開始を目指しています。